

2020年
令和2年

入学試験を施行

日本歯科大学新聞

東京千代田区富士見
日本歯科大学新聞会
発行兼人 中原 泉
編集人 1部10円
発行日 偶数月末日
定価 1部10円
編集室 (〒951-8580)
新潟市中央区浜浦町1-8
☎025(267)1500



2時間目は国語・数学、試験開始の合図を待つ受験生たち(2月1日・東京)

両学部部の合格者発表 東京短大、新潟短大の入学試験も

2020年度(令和2)の日本歯科大学入学試験は、1月中旬のセンター試験と2月初旬の本学試験をもって東京で施行し、両学部部の合格者を発表した。本年も同一試験日に、生命歯学部と新潟生命歯学部との受験と併願が可能な「全学部入試」を実施した。あわせて、東京短期大学と新潟短期大学の入学試験が行われた。

アフリカ・マリ共和国
ボランティア活動30年
村上 一枝先生(2・3面)
ノーベル平和賞に推薦

2020年度の入学試験は例年のように、大学入試センター利用入学試験と、本学で実施する一般選抜試験の2本立てで行われた。

本学では本年も、同一試験日に両学部部の受験と併願が可能な「全学部入試」を一般選抜とセンター利用入試で実施した。一般選抜入学試験の前期試験は、生命歯学部(東京)において英語I・II一科目、国語・数学のうちから1科目、理科(物理・化学・生物のうちから選択)1科目、計3科目の学力試験、ならびに面接試験を2月1日に実施し、4日に合格者を発表した。

東京短期大学歯科理工学科と歯科衛生学科の一般A入学試験は、2月2日に学力試験と面接試験を実施した。一般B入学試験は2月23日に小論文と面接試験を実施し、歯科理工学科の一般C入学試験は3月19日に面接試験を行う。

新潟短期大学歯科衛生学科では、大学入試センター利用入学試験を2月9日に実施し、一般選抜入学試験を3月12日に行う。

なお、3月に実施される学部と両短期大学の入学試験では、新型コロナウイルス対策として、受験生に手指の消毒と手洗いの励行を呼びかけ、試験会場ではマスクの着用を許可することとした。

新型コロナウイルス 本学の感染防止対応

新型コロナウイルス感染症は、日本国内においても感染者の増加とともに、今後の感染拡大が懸念されている。

本学では2月下旬に、医療従事者に限らず全教職員を対象に、感染防止に対する勤務上の留意点を通知した。

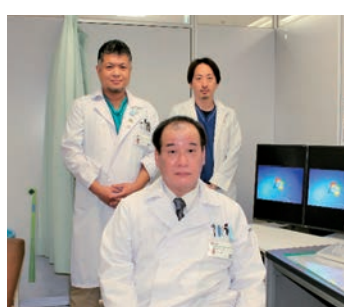
乳腺内分泌外科を開設

附属病院では令和元年8月、医科系診療部門の外科に、乳腺専門医・内分泌外科専門医である櫻井健一教授が診療科長(生命歯学部外科学講座)として就任したことをお知らせした。

東京・附属病院



放射線検査室に設置されたマンモグラフィ撮影装置

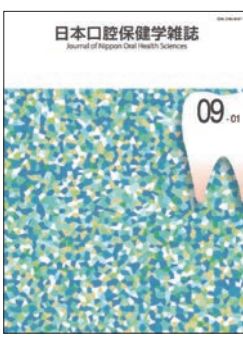


左から平野准教授、櫻井教授、鈴木講師

また内分泌疾患や甲状腺疾患の診断・手術・内分泌治療に取り組んでいる。

東京短期大学の機関誌「日本歯科大学東京短期大学雑誌」は2012年3月以来、専攻科修士と専任教員による原稿論文、臨床報告、研究調査を公表してきた。

このたび同誌は、投稿規程や投稿の手引き等を一新し、全国の歯科衛生士養成170校、歯科理工学養成49校にオープン化を図って、『日本口腔保健学雑誌』と改称し、学外からの論文投稿を受け付ける、わが国唯一の口腔保健学の学術雑誌である。



2019年12月発行の新刊第9巻(写真)からは、J-STAGE 掲載誌と

なり、各論文にはDOIナンバーが付与されている。J-STAGEは、独立行政法人科学技術振興機構が運営する電子ジャーナルの無料公開システム。

計報

羽坂勇司名誉博士
本学名誉博士で41回卒の羽坂勇司先生は、1月12日満99歳で逝去された。羽坂先生は青山学院高等商業学部を卒業。兵役ののち、昭和27年に本学を卒業し横浜市で開業。1990年から16年

間にわたり学校法人青山学院の理事長を務めた。また歯科医学史の研究者、西欧の歯科器械・器具の収集家としても名高く、神奈川県歯科医師会歯の博物館の学術特別委員なども務めた。葬儀は1月16日、長女の野上ゆかり先生(69回卒)を喪主に、近親者により執り行われた。

村上一枝先生を ノーベル平和賞に推薦



村上一枝先生

本学HP「これが日歯大スピリッツだ！先輩からのメッセージ」掲載写真

趣意書

村上一枝さんは、西アフリカの途上国マリ共和国を旅行中、農村の貧しい生活に接し、やむにやまれぬ気持ちに駆られ、帰国後、だちに盛業の歯科医院を閉じて、1989年10月、48歳のとき単身で同国に渡りました。

マリ共和国（旧スーダン）は、西アフリカの大陸で、国土は124万Km²（日本の3.3倍）です。北側の3分の1は、サハラ砂漠になりま。人口は1854万人で、首都はバマコです。村上さんは、初めての1年間は、サハラ砂漠で植林ボランティアとして活動しました。その後、1990年に南部のクリコ県マディナ村に移住し、私財を投じて村の開発に着手しました。村上さんのボランティアの信念は、現地の人々と一緒に

になって、「ただ与えるのではなく、自立を促すこと」でした。まず、マディナ村を拠点として、約800人の村民調査にもとづいて、深井戸を掘りトイレトを設け衛生面の生活改善をはじめ、出産や育児の母子指導、マリアの予防や腸内寄生虫の駆除等の保健衛生の改善に努めました。

その一方、裁縫教室をひらいて裁縫や刺繍を指導し、女性が自立できるように手に職の技術をひろめました。また、識字教室をひらいて子供や成人に読み書きを教習し、村民の識字学習を支援しました。あわせて、若い女性に避妊の知識を教え、乳幼児の育児教育を行いました。

1992年9月には、会の前身となる「マリ共和国保健医療自立を支援する会」を設立し、看護婦1人と助産婦1人を養成し、マディナ村診療所を建設しました。また、女性の自活のための初の女性センターをバマコ市に建設します。

1993年9月には、中核となる支援団体を「カラシ西アフリカ農村自立協会」と改名し、翌年3月には、マリ政府から外国人NGO団体としての認証を受けました。そこで、クリコ県バブク村を第2拠点として、クーラ郡、ドゥンバ郡57村への支援を本格化します。バブク村に野菜園の造成、深井戸の掘削、植林の造成、女性センターの建設をしました。また、1994年から2000年まで延べ10万人余にマリア予防薬を配布し、罹患率を激減させました。その結果、同地域のマリアによる小児の死亡は、ゼロになりました。

2000年4月からは、より自然環境の悪いシラコロラ郡30村に支援活動をひろげます。現地の住民の暮らしに密着した啓発活動は奏功し、同エリアでも妊産婦や乳幼児の死亡率、小児を苦しめた下痢は大幅に減少しました。

2001年に「医療功労賞」を受賞した時、村上さんは「この賞金で、マリアの薬が500人分買えます。」と、感動的な謝辞を述べました。村上さんは、マリ北部の内戦がつづくなか、毎年、20時間をかけて帰国し、支援団体はじめ小・中・高校や大学で講演やイベントを開催します。そこで、支援活動の現状を詳しく報告し、共鳴する人々から義援金を募り、たゆまぬ地道な活動をつづけています。

健康で明るく自立した生活を目指す村上さんのボランティア活動は、マリの人々に慕われて今年で30年に及びます。この間、村上さんはマリ各地に、次のような建築・設置・人材育成等を行ってきました。

- ①小学校21校、中学校3校
- ②助産院・診療所15院
- ③識字教室70ヶ所、女性センター19ヶ所
- ④深井戸掘削71基、浅井戸掘削8基、トイレト設置30基
- ⑤野菜園34ヶ所、造成林20ヶ所
- ⑥助産師・看護師の養成16人、女性健康普及員の養成207人
- ⑦マリア予防、腸内寄

「推薦する会」が申請して受理される 「マリ共和国でボランティア活動30年」

本学名誉博士で第54回卒業の村上一枝先生は、1989年から、西アフリカ・マリ共和国の農村に居住して、ボランティア活動を行っている。マリア活動を行っている。マリ共和国は内戦が絶えない最貧国である。

この30年におよぶ村上先生の活動は、ノーベル平和賞に値すると評価し、中原泉学長が発起人代表となり、ノーベル平和賞委員会に村上先生を授賞候補者として申請した。

昨秋に和文と英文の趣意書と推薦依頼書を作成して、関係各方面の支援をうけた。申請にあたっては、「推薦する会」が、書類一式を整えてEメールで送信した。ノーベル平和賞委員会は、ノルウェーのオスロにおかれているので、申請書原本と副本は同所に郵送した。申請期限は当該年度の1月31日24時だが、1月25日付けEメールによる申請は、即日に受理したとの返信をうけた。郵送した書類も、1月31日12時46分（現地時間）にノーベル賞委員会に届けられた。



最初の仕事は村民調査



乳児の身体の具合をみる



村上さんを慕う村の人たち



居住する日干レンガの家



女性に裁縫を教える



綺麗な刺繍をする女性たち



深掘井戸の水をコップへ



手押しポンプ付の深掘井戸

村上 一枝(むらかみ かずえ)先生の略歴

- 1940年2月 北海道士別市生まれ。
- 1965年3月 日本歯科大学卒業(54回卒)。
- 1984年4月 新潟市で歯科医院を開業(89年8月まで)。
- 1989年9月 マリ共和国へボランティアとして植林活動に参加。以後マリに居住。
- 1990年11月 マリNGO「コマカン協会」の個人ボランティアとして、クリコロ県マディナ村に居住。村民調査後、衛生環境改善、女性適正技術指導、学校建設・識字学習普及に携わる。裁縫教室、識字教室の開催、小学校の建設にスタート(以後継続)。
- 1992年9月 支援団体「マリ共和国保健医療を支援する会」設立、現地代表。
- 1993年4月 看護婦・助産師を養成して診療所を建設し、助産院の建設にスタート(以後継続)。
- 1993年7月 マディナ村マリNGO「コマカン協会」との契約終了。
- 1993年9月 団体名称を「カラ=西アフリカ農村自立協力会」と改名。
- 1993年10月 外務省主催「第1回アフリカ開発会議」NGOフォーラム「立ち上がる女性たち」にパネラーとして参加。
- 1994年3月 マリ政府から、外国人NGOとして認証される。クリコロ県クーラ郡、ドゥンバ郡(57村)へ支援事業を開始(以後継続)。
- 1994年11月 外務省主催「アフリカ教育問題シンポジウム」にパネラー参加。
- 1998年5月 「カラ=西アフリカ農村自立協力会」代表に就任。
- 2000年4月 クリコロ県シラコロラ郡(30村)へ支援事業(以後継続)。
- 2002年3月 東京都から、特定非営利活動法人として認証される。
- 2003年8月 東京で、マリ国立民族舞踊団による公演を企画開催。
- 2004年4月 文部科学省検定済教科書の高等学校外国語用「109文英堂 英II021 UNICORN ENGLISH COURSE II」に載用される。JICA・NGO合同セミナーにNGO講師として参加。
- 2007年7月 TBSテレビ九州「命の水を求めて」に出演。
- 2014年6月 日本歯科大学名誉博士号を受く。
- 2017年3月 法人解散、以後、任意団体として支援事業を継続(支援対象87村)。
- 2019年5月 TV東京「世界ナゼそこに日本人」に出演。

生虫駆除、エイズ予防今年で80歳になる村上さんは、我が子の成長する姿をみるように、マリの人々の意識の高まりを喜びながらも、「まだ道半ばです」と語ります。村上さんは現地に居住し、ひたすら農村の人々の健康で自立した生活の支援に尽力しています。その結果、村上さんの活動は国境・宗教・民族の違いを超えて、マリ共和国の「人造り国造り」の支援につながっています。このように、村上さんの活動は、ノーベル平和賞に値すると評価し、同賞の授賞候補者として推薦くださるようお願い申し上げます。

- 「村上一枝さんをノーベル平和賞に推薦する会」発起人代表 日本歯科大学学長 中原 泉
- 発起人 京大精華大学学長 Oussouly SACKO
- 日本歯科医師会会長 堀 憲郎
- 日本歯科医師連盟会長 高橋英登
- 日本歯科医学会会長 住友雅人
- 日本歯科大学校友会会長 近藤勝洪
- 衆議院議員 三ツ林裕巳
- 連絡先 学校法人日本歯科大学事務局(東京都千代田区富士見1-9-20)

村上一枝先生の受賞歴

- 1995年2月 ソロプチミスト日本財団「女性ボランティア賞」
- 1996年9月 三基商事第4回「ミキ女性大賞」
- 2001年3月 読売新聞社第29回「医療功労賞」
- 2002年6月 長岡市米百俵財団第6回「米百俵賞」
- 2003年2月 (財)大山健康財団第6回「大山健康財団賞」
- 2003年3月 (社)倫理研修所第6回「地球倫理推進賞」
- 2006年11月 (財)社会貢献支援団第36回「日本財団賞」
- 2012年2月 毎日新聞社第二回「毎日地球未来賞」
- 2013年6月 日本住宅協会「国際居住年記念賞」
- 2013年11月 国際ソロプチミスト日本財団平成25年次「社会貢献賞」「千嘉代子賞」
- 2017年6月 (社)日本病院会・(公)全日本病院協会・(公)地域医療振興会・セルジーン社 第3回「山上の光賞」



寄生虫駆除の薬を説く



村民に保健衛生を説明



村民と日陰で休憩中



野菜園の栽培を見回る



野菜園で栽培を指導する



ボランティア活動を語る



助産院前に並ぶ妊産婦と幼児の列

ノーベル平和賞とは

が発行した記念切手。平和賞はノーベル賞の中で、唯一、公募され応募できる賞である。1974年、ノーベル賞は、ダイナマイトを発明したアルフレッド・ノーベルの遺言により制定された。右は、ノーベル没後75年の1971年にマリ共和国で選考し、毎年10月に発表される。

1974年、ノーベル賞は、ダイナマイトを発明したアルフレッド・ノーベルの遺言により制定された。右は、ノーベル没後75年の1971年にマリ共和国で選考し、毎年10月に発表される。



附属病院 地域連携室 令和元年度 秋・冬に 医療連携学術講演会を開催

東京の附属病院では、恒例となった「医療連携学術講演会」を令和元年9月と令和2年2月に開催した。

第1回講演会は、令和元年9月26日(木)午後6時から附属病院牛込ホールで開催し、約120名が参加した。

アンケート調査で希望が多かった医療連携、放射線読影、歯内療法、乳幼児の診察の4演題が講演された。演題と演者は次の通り。

「歯科・歯科連携を有効利用するために」



根管治療のコツを講演する北村教授(9月26日)



小児歯科・内川教授(9月26日) 外科・櫻井教授(2月6日)

医療連携室室長 小川智久

「こんな撮影法があったの?」症例に応じたデジタルエックス線と歯科用CTの撮影」

放射線・病理診断科科長 岩田 洋

「根管治療を確実にこなすためのちよつとしたコツ」

歯内療法チーム長 北村和夫

「乳幼児の口の診方・考え方」

小児歯科診療科 内川喜盛

講演後に催された懇親会では、演者のほか各診療科長が出席し、多くの参加者と情報を交換した。

笹川教授(新潟・先端研) 最終記念講義

新潟生命歯学部先端研究センター所長の笹川一郎教授の最終記念講義は、1月17日午後5時から、新潟生命歯学部アイヴィホールにおいて行われた。演題は「比較解剖からみた歯の組織―謎の



記念品を手渡す中原学長(右)

笹川教授は最終記念講義で、まず歯の構造の歴史や歯と鱗の起源、脊椎動物の歯の高石化組織について語った。長年テーマとしてきたエナメルイド研究を通じ、歯の組織構造を形成過程と



比較から探ることで、形態組成のしくみや法則が明らかになるのではないかと述べた。

講義終了後、中原学長から記念品が贈呈された。笹川教授は1974年(昭和49)3月新潟大学理学部卒業。同年4月本学新潟歯学部口腔解剖

硬組織エナメルイドの研究でわかったこと」で多くの教職員、大学院生、学生や関係者が聴講した。

歯の構造の歴史や歯と鱗の起源、脊椎動物の歯の高石化組織について語った。長年テーマとしてきたエナメルイド研究を通じ、歯の組織構造を形成過程と

「癌と薬物療法と歯科のかかわり」

外科診療科科長 櫻井健一

「摂食嚥下障害を伴う全身疾患への対応―歯科は何を評価するのか?」

口腔リハビリテーション科 高橋賢晃

第2回目の講演会参加者たちは、昨年8月生命歯学部外科学講座(附属病院外科診療科科長)に赴

学教室第一講座助手。講師 助教を経て2006年(平成18)4月先端研究センター教授に就任した。(上写真・中央に花束に手にする笹川教授)

影山教授を派遣 硫黄島・遺骨収集

新潟生命歯学部解剖学第一講座の影山幾男教授は、1月末から約2週間

このたびの派遣は、厚生労働省社会・援護局の依頼による。太平洋戦争の激戦地、硫黄島で、令和元年度収容された戦没者遺骨は11柱で、本年度4回目の収集に同行した影山教授は、収容した遺骨4柱の人骨鑑定を行い、日本人戦没者のご遺骨であるかの判別などを行った。

特に櫻井教授の講演「癌と薬物療法と歯科のかかわり」は、今までの当講演会では言及されなかつた演題で、開業医

本学女子卒業生 大学別女性社長 ランキング10位に

1月末に配信された経済誌「ダイヤモンド・オンライン」は、大学別女性社長輩出ランキングを掲載した。同誌の女性社長ランキングによれば9位の東大出身者138名に続き、本学は134名で第10位という。

今回のランキングには、女性社長(経営者)として、病院・医業を開設する医療法人の理事長も含まれている。東商リサーチ約379万社の経営者情報をもとに集計した。

1位は日本大学の414名で、2位は東京女子医科大学の317名。以下慶応、早稲田、青山学院と続く。

の先生方にも癌患者の診療に役立つ内容であった。医療連携室では、附属病院に患者さんを紹介してくださる先生方に、これからも役に立つ情報を提供していきたい。

(附属病院医療連携室 室長 小川智久)



阿部顧問を中心にクリスマス・キャロルを奏でる



アンサンブル部初代顧問の羽村章教授を交えて演奏者一同

東京の附属病院では昨年12月24日、生命歯学部ならびに東京短期大学の学生から編成されたアンサンブル部員と、顧問の阿部恵一講師(歯科麻酔・全身管理科)、アンサンブル部OBで研修歯科医の三村英旺先生が、クリスマス・キャロルメドレーやデイズニー映画の名曲を奏で、50人を越える聴衆を魅了した。

東京 クリスマス・ロビーコンサート

2020年度 日本歯科大学歯学会大会・総会

令和2年6月7日(日) 新潟生命歯学部講堂
メインテーマ「これからの歯科医療を考える」

わが国は高齢社会となり、介護受診者が急増しています。これから先の高齢者の歯科医療は、どのような対応を行っていくべきか、本年度の大会では「これからの歯科医療を考える」をメインテーマに掲げ開催します。

午前10時40分から開かれる基調講演では、大阪医科大学口腔外科学教室 植野高章教授に「健康寿命の延伸―高槻モデル」をテーマに講演いただきます。

植野先生は高槻市を中心に行政、市民の方々と地域連携し、口腔ケアの推進を図り、健康寿命の延伸に効果をもたらした取り組みをされ、高い評価がなされています。是非私たちも、具体的にどのような対応が必要であるのか地域との連携について考えてみたいと思います。

今年度の歯学会大会・総会

会は同日の午後、16年ぶりに第9回国際歯学研究会が開催されますので、継続してご参加いただければ幸いです。

なお、令和2年度歯学会総会・学術大会のポスター発表、学術奨励賞の受賞講演は、本年12月に新潟生命歯学部で開催予定のウィンタースミューティング時に行います。

大会長 渡邊文彦
(新潟生命歯学部歯科補綴学第二講座)
025-267-1500
(内線3310)

歯は臓器の一つ 口から始まる全身病



定価 1,600円 (税別)

自律神経を整えて、手軽にできる「口内環境」の作り方から最先端のむし歯治療までを紹介する「口内ケア」の決定版

日本自律神経病研究会編

小川優(日本歯科大学1981年卒) 小峰一雄 永野剛造 著

静風社

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-20-7-904
TEL: 03-6261-2661 FAX: 03-6261-2660
http://www.seifusha.co.jp



第9回 国際歯学研修会

会期: 令和2年6月7日(日) 13:40~16:10
会場: 日本歯科大学新潟生命歯学部 講堂
メインテーマ: 歯科医学における再生医療

特別講演

「口腔外科の臨床観点からみた口腔再生医療」
講師: 飯塚建行
ベルン大学医学部 頭蓋顎顔面外科学講座 主任教授
座長: 中原 賢
新潟生命歯学部 先端研究センター 教授

日本歯科医師会生涯研修コード: 183568
日本歯科大学歯学会・校友会共催